

マキモノガイ *Leucotina diana* (A.Adams)

【選定理由】

本種は、内湾から外洋にかけての潮下帯から水深 50 m ぐらいの砂泥地にすむ。二枚貝類に外部寄生するとされているが宿主は不明 (和田・他, 1996)。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻がわずかに採集されたが、生貝は採集されていない (木村, 1996)。その後の調査でも伊勢湾湾口部や渥美外海でドレッジや小型底引き網により死殻が稀に採集されているが、生息は確認できない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻長約 30 mm の紡錘型の巻貝。殻はやや厚いが脆い。殻表には明瞭な螺肋が多数めぐらされる。殻は白色であるが、生時は黄褐色の薄い殻皮に覆われる。



渥美外海水深 100-120 m(底引き網), 1997 年 10 月 3 日,
木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では近年生貝が採集されず、死殻でさえもほとんど採集されない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島に分布し、日本では大槌湾・新潟県～九州に分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、県内では近年生貝は採集されていない。もともと普通種ではなかったが、近年伊勢湾湾口部から外洋で操業する底引き漁船でも死殻もほとんど採集されず、危機的な生息状況である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. マキモノガイ, p. 86. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 385pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)